



津山の人・物・技術
など、明日誰かに自慢
したくなる津山のいい
ところを紹介します

ええとこ
いっぱい

津山 我慢

2 つやまじまん

地域商社つやまエリア
株式会社「曲辰」代表
岡田 裕治さん(上河原)

令和2年10月に設立した地域商社「曲辰」。社名の由来は、さまざまな角度から材を見るために大工が使う曲尺の「曲」、日時を示す「辰」。「曲」と「辰」を組み合わせると「農」になります。地域の農業と生産者に特別な思いを抱く岡田さんの挑戦とは。

地域のため、農業生産者のために——
動き出した地域商社「曲辰」の挑戦

市が公募した地域商社の代表として昨年10月に着任した岡田裕治さん。市内で製粉業を営む株式会社半鐘屋の代表も務めています。応募の動機は「農業生産者に恩返しをしたい」。農業生産者に特別な思いがあるようです。

「祖父の影響が大きいです。米や大豆の製粉を生業にしているの

で、農業生産者がいないと商売が成立しません。農業生産者に足を向けて寝られないと、よく祖父から聞かされました。祖父は昭和時代に、自社の利益を損なうと知りながら、地域のためと大型スーパーの誘致に関わりました。この祖父の魂を受け継ぎ、地域のため、農業生産者のためという強い思いがある」と岡田さんは言います。

この思いは、農産物に新たな価値を付けて販路拡大を目指す地域商社の目的と一致したそうです。

「津山地域で生産される農産物の品質の良さは、これまで手掛けてきた商品から実感しています。そこで和菓子、酒や味噌などの原料になる加工用米のブランド化を

目指しています。加工用米は契約栽培のため価格が安定し、一定金額の収入が見込めるといった強みがあります」と今後を見据えます。

「地域の農産物を商品化するまで、津山地域内で完結したい。企業が持つ加工技術や設備、体制を生かしながら、需要に見合った農産物を安定して供給する仕組みを、皆さんと協力して作りたいです。

例えばおじいさんが栽培した米を、地域内の企業が買い取り、加工することで100%津山産の商品ができる。孫がそれを食べて成長し、祖父が作った農産物が使われていると知ること、地域に誇りを持つたり、後継者に育つたりするかもしれない」と力を込めます。

「地域農産物の米・麦・ぶどうなどは、1年に1回しか収穫できません。焦る気持ちを抑えながら2年先、3年先を見据え、適切な時期に適切な行動を取りたい。そして、地域の農業生産者の所得向上と持続可能な農業を目指していきたい」と新たな挑戦に向け、決意を語りました。

日笠治郎さんと初めて会ったのは8年前です。その後も仕事上での関わりが6年間続きました。農業を振興するため、真摯に取り組まれる姿を日々、垣間見続けていました。懐の深い人柄だからこそ、さまざまな問題を解決できた印象があります。この度の文化功労者の受賞、誠におめでとございます。(三)



ツリークライミング体験会を取材しました。登っていく子どもたちを撮影中、「上から撮ってみたら？」とインスタトラクターから声をかけられ、わたしも体験することに。木の上ではなかなか思い通りに撮影できませんでしたが、遠くの景色を眺めたり、心地よい風を感じたりと、森に親しみを感じました。(三)

まちかど写真館で紹介した自動販売機デザインコンテストで表彰を受けた奥さんは、津山工業高校デザイン科の出身で、当時、原動機付自転車の津山市ご当地プレートの一つをデザインしました。18歳の崖が課題といわれる中、卒業後も引き続き津山で活躍されている姿に出会え、とてもうれしかったです。(一)

日笠治郎さんと初めて会ったのは8年前です。その後も仕事上での関わりが6年間続きました。農業を振興するため、真摯に取り組まれる姿を日々、垣間見続けていました。懐の深い人柄だからこそ、さまざまな問題を解決できた印象があります。この度の文化功労者の受賞、誠におめでとございます。(三)

☎ 0868-32-2029
☎ 0868-32-2152
✉ kouhou@city.tsuyama.lg.jp

広報津山は、環境保護のため再生紙と植物性インキを使用しています。読み終えた後はリサイクル(資源)にご協力ください



広報津山
電子版



津山市公式
LINE



津山市公式
Instagram

